

## 伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：奈良女子大学（総括責任者：野口 誠之）

### プロジェクトの概要

(1) 新規養成女性研究者の採用計画（平成 22 年度～26 年度）。( ) 内は女性教員採用比率

理学系：4(80.0%), 1(100%), 0(0%), 2(66.7%), 0(0%)

工学系：1(100%), 0(0%), 1(100%), 0(0%), 0(0%)

本学は農学系に比べ理工系の女性研究者比率が低い。本申請では比率の低い理学系と工学系に関して重点的に採用を計画した。極めて高い採用比率をポジティブアクションで実施することにより、加速的に女性教員比率を高め、当該課題対象分野（理工農系）で3年度目には 27.5%、5 年度目には 28.4%という高い女性教員比率を達成する。

(2) 女性研究者養成のための取組内容 採用した新規養成・独自養成女性研究者、既在籍女性研究者に対し、1)若手研究者サポートシステム、2)若手女性研究者養成システム、3)研究スキルアップシステムを適用し、メンター制度などにより教員の協力体制のもとに女性研究者を養成する。

(3) 期待される効果 本申請課題の推進により、本学の理工系女性教員比率が加速的に伸び、20%以上を安定的に維持できるようになり、全学の比率も 30%を超える。また3つの支援システムにより次世代を含めた女性研究者の増加と研究の質の向上が大いに期待できる。

### (1) 評価結果

総合評価	進捗状況	取組の内容	システム改革	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

### (2) 評価コメント

定年退職者及び転出者の補充ポストを用いて計画的に教員の女性限定公募を実施し、新規養成女性研究者の採用、女性研究者割合の向上など所期の目標を十分に達成している。

教員の女性限定公募においては、公募内容及び公募方式を工夫し応募者の増加を図り、優秀な女性研究者の採用に繋げており評価できる。高い目標を掲げ取組を進めており、今後は学長裁量によるプロモーション制度の運用を進め、女性研究者の上位職階への昇任を促進することを期待する。

・**進捗状況**：新規養成女性研究者数、女性研究者比率とも、理学系、工学系分野で目標を達成しており評価できる。従来から女性研究者比率の高かった農学系分野でも、女性研究者比率の目標達成を期待する。

・**取組の内容**：分野に応じ公募内容を工夫し、教員の女性限定公募を実施することにより、優れた女性研究者の採用に繋げている。小規模女子大学における計画的な女性研究者採用を進めており評価できる。今後は、独自養成女性研究者の採用を期待する。

・**システム改革**：メンターチームによるメンタリング、学長裁量によるプロモーション制度の導入等、特色的な女性研究者養成システムを構築しており評価できる。今後、女子大学ならではの取組を実施し、他機関へ波及効果を及ぼすことを期待する。

・**実施体制**：学長のリーダーシップの下、全学的な実施体制が構築されており、計画的にシステム改革が実施されている点が評価できる。

・**今後の進め方**：順調に所期の計画を推進しており、事業実施期間終了後 5 年間の目標設定も意欲的であり、更なる女性研究者の採用、上位職への登用が期待できる。